

# 東根市蟹沢雪むろ夏の収穫祭を開催しました！！

(平成 24 年 8 月 18 日)

蟹沢雪むろ 地域おこしグループ「ふきのとう」

3月19日 (日曜日) 地域 山形新聞平成24年8月19日



**雪室ってすごい！**  
夏の収穫祭 見学や貯蔵品試食  
東根

東根市蟹沢地区の旧家で昭和初期に造られた雪室の再生に取り組んできた住民有志が18日、夏の収穫祭を開いた。雪室の見学、貯蔵品の試食などが催された。雪室は、かつて大地主だった安部家のサクランボ畑の地下にあり、床や壁をコンクリートで固めて造られた。長く使われていなかったが、地元の地域おこしグループ「ふきのとう」(安達正之会長)が市の補助金を活用して改修。雪を入れた室内に3月から青果物、ジャガイモ、ハクサイなど

酒などを貯蔵していた。8月1日までの室温は零度近くに保たれ、中に入れた雪が7割ほど残るなど高気温32度だったこの日も入り口のふたを開けた状態にもかかわらず、室温は8度。地元の小田島小6年阿部楓さん(11)は「クーラーより涼しい。雪室ってすごい」と感心していた。

近くの中央北斗公民館ではアイスクリーム作りなどの体験学習、貯蔵していた分をゆでるなどして振る舞い、来場者から「しっかりした歯応え。甘みもある」との声が聞かれた。安達会長は「関係機関と相談し、貯蔵方法を改善する。球根も貯蔵し、春の花を夏に咲かせたい」と話していた。

の試食が行われた。青果物には長期貯蔵による傷みもみられたが、食べられる部分をゆでるなどして振る舞い、来場者から「しっかりした歯応え。甘みもある」との声が聞かれた。安達会長は「関係機関と相談し、貯蔵方法を改善する。球根も貯蔵し、春の花を夏に咲かせたい」と話していた。

昭和初期の貯蔵用地下穴を利用して地元有志が造った雪室の見学会が18日、東根市蟹沢で開かれた。中に入っ

## 雪室 涼しさ格別

東根・蟹沢地区有志が造る 昭和初期の貯蔵地下穴利用



雪室の涼しさに驚きの声を上げる子供たち—東根市蟹沢で

た子供たちは蒸し暑い外とは違う涼しさに「すごい」と驚きの声を上げていた。雪室はサクランボ畑の一角にあり、縦2・2尺、横3・2尺、深さ2・6尺、厚さ5寸の発泡ウレタンで内部を覆い断熱性を高めた。今年2月に入れた雪約4斗は現在も7割が残っており、室温は0〜1度を保っている。貯蔵用地下穴は、大地主だった安部家38代(昭和3)の孫の彦四郎さんが1924年に自宅敷地に造った。当時としては先駆的なコンクリート製で、水を置いて冷蔵庫として使ったという。貴重な地下穴を雪室として活用しよう」と

毎日新聞平成24年8月19日

地元有志は昨年3月に「蟹沢雪むろ地域おこしグループ「ふきのとう」(安達正之会長)を結成。今年3月には実際に食材を置いて貯蔵機能を研究した。18日の試食会では、野菜や漬物の一部は腐っていたが、米やジャガイモ、ゴボウ、サクランボな

## うれし 美し 真夏の桜

雪室で保存され、真夏に花を咲かせた桜の切り枝  
—東根市役所

東根市役所 雪室で保存の切り枝 開花



山形新聞 平成24年8月22日

東根市蟹沢の住民有志でつくる地域おこしグループ「ふきのとう」(安達正之会長)が地元の雪室で「休眠、させていた桜「ソメイヨシノ」の切り枝が開花し、同市役所に飾られている。季節外れの春の花が、来庁者の心を和ませている。

同グループは、昭和初期に旧家敷地内に造られていた雪室の再生に取り組んでいる。つぼみの状態の切り枝を青果物などととも3月から雪室で保存し、今年7日に取り出した。地元で18日に開いた夏の収穫祭には咲かなかったが、翌19日夕に開花。20日から市役所1階で展示している。

同市の東根中部小5年秋場祐紀君(11)は「夏に花を見ることができてなんて珍しいし、きれい」と桜に見入っていた。安達会長は「休眠させていたため花がピンク色でなく白いが、咲いたことはうれしい。花の期間は短いと思うが、多くの人に見てもらいたい」と話している。

どは食べられる状態だったことを確認した。安達会長は「桜の枝を入れて夏に咲かせることも検討している。地域之宝なので、地域

活性化につなげたい」と話した。  
【浅妻博之】